

## 参考資料 1 - 2

第21回緊急時対応専門調査会(H19.3.12)提出資料

● ● ●  
平成18年度

緊急時対応訓練について

- 訓練から得られた課題への対応 -

平成19年3月12日(月)

食品安全委員会事務局

# 委員会内の考え方の再確認

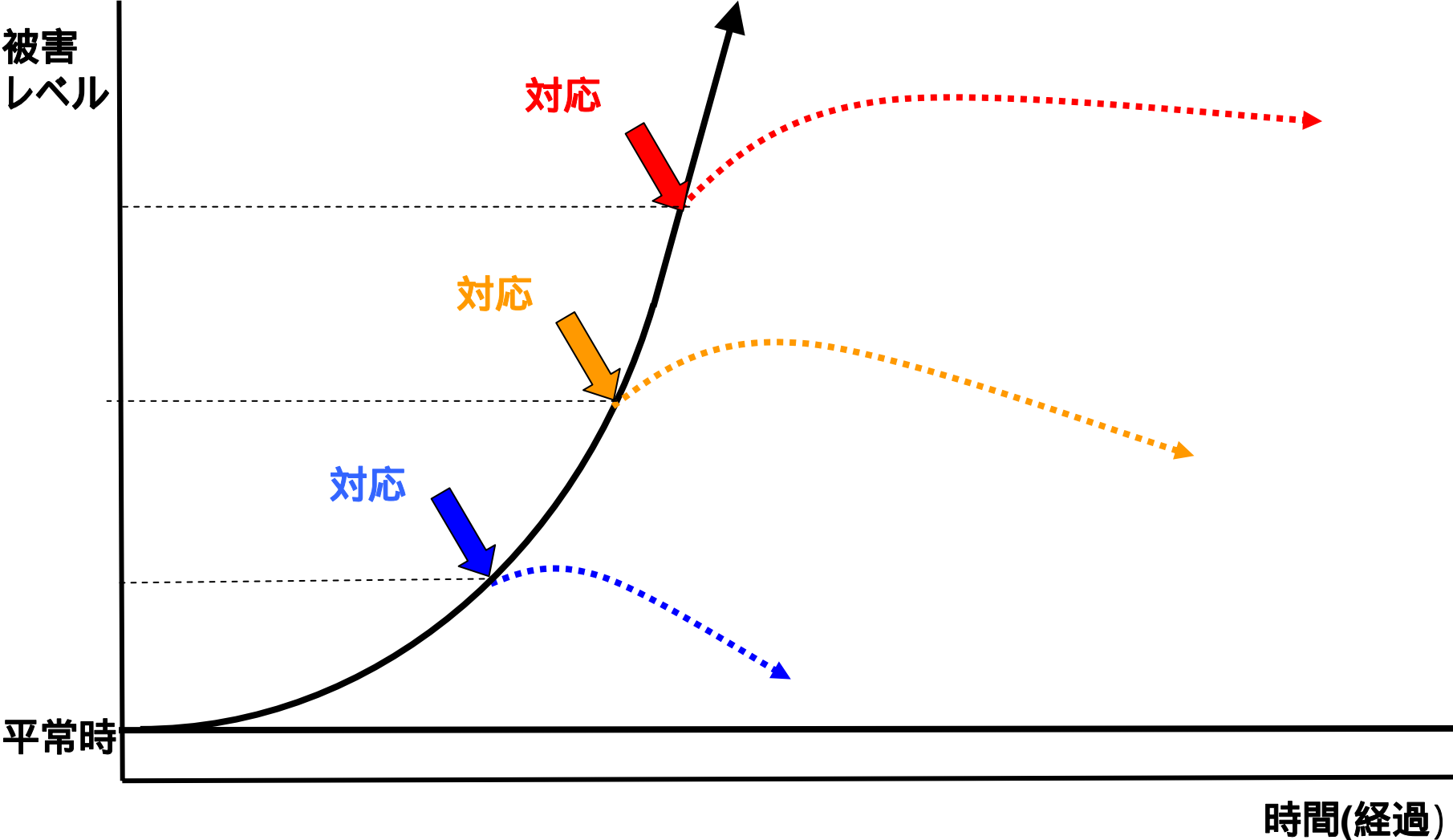
食品安全委員会における緊急時対応に関する委員会内の考え方の再確認の必要性が確認された

1. 危機管理に必要な考え方、技術の再確認
2. 食品安全委員会における緊急時対応の考え方の再確認

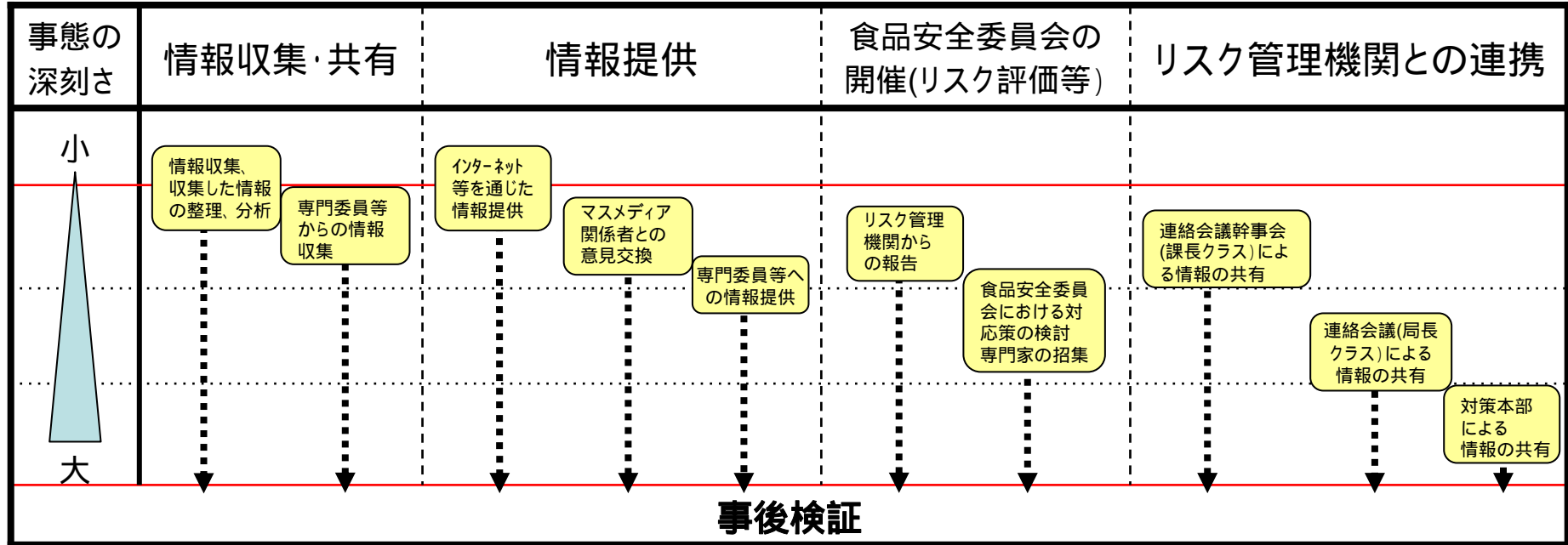
# 危機管理に必要な考え方・技術の要点

- 平常時における事態の想定、想像力の涵養
- Proactive の考え方 = 先を見越した行動をとる、率先してやる
- 情報収集・分析・統合能力
- 情報の共有と認識の共有
- 明確な意思決定過程、簡素な指揮命令系統
- 不確実状況下での意思決定の考え方、方法の確立
- 事態に応じた体制確立と連携(役割分担の基本を決めておいて、危機時には臨機の役割分担を行う)
- 対応能力分析(平常時、緊急時)
- プレス対応、住民広報 = クライシス・コミュニケーション

# 緊急時対応の効果



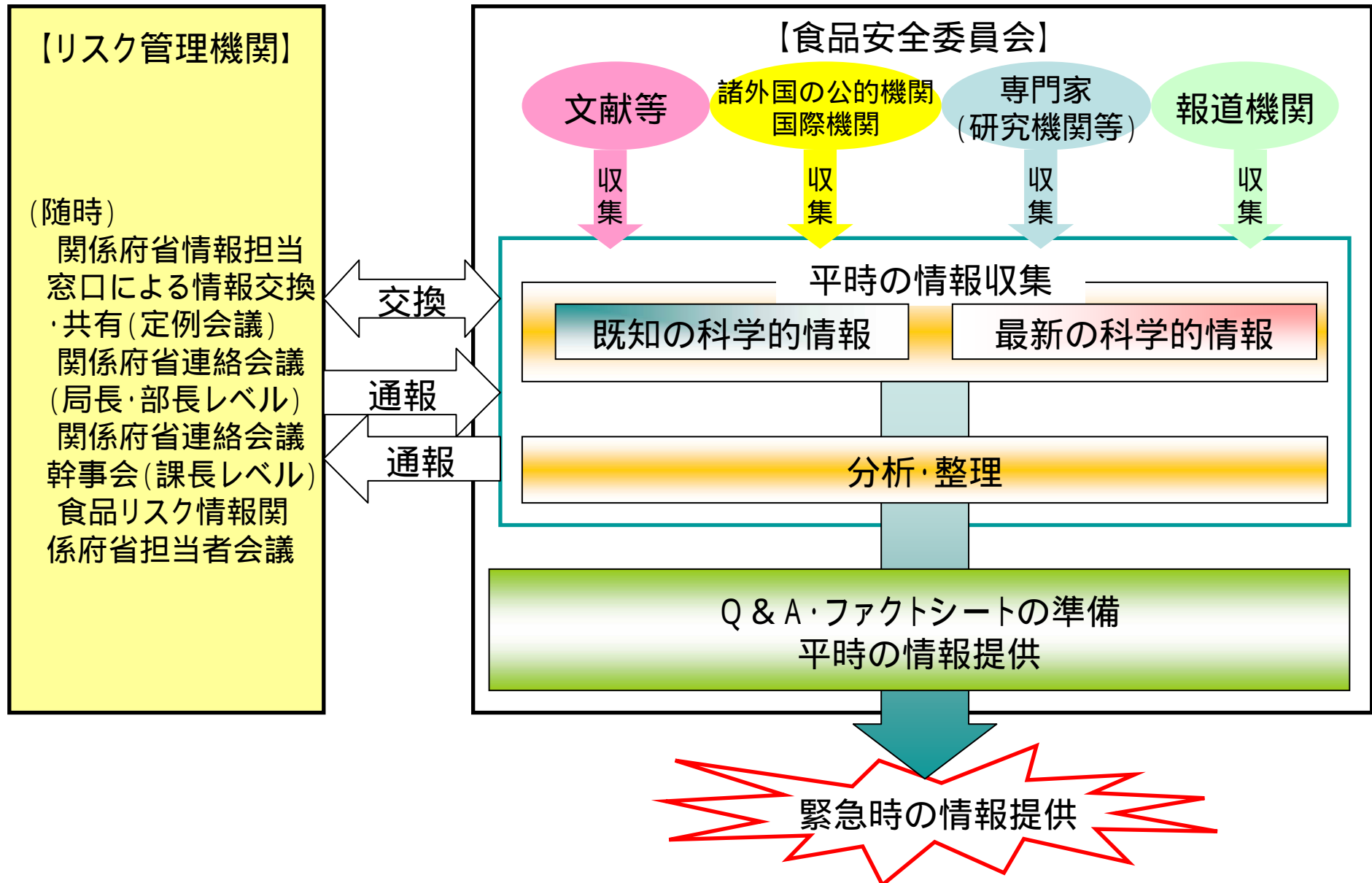
# 食品安全委員会における 緊急時対応の展開イメージ



## 【緊急時対応の判断要素】

判断要素	健康被害の規模	社会的反響の大きさ	リスク管理機関の対応
要素内容	被害者数 被害程度 拡大状況 等	報道量(テレビ、新聞等) 報道内容 食の安全ダイヤルへの反響 等	リスク管理措置 等

# 情報の収集と分析について



# 食品安全委員会の「情報提供」について

平時からの情報収集・分析の充実

食品安全委員会からの情報提供

<判断要素>

- ・被害状況  
(発症数・死亡者数)
- ・被害拡大の可能性  
(複数県での発生等)
- ・原因・感染経路の特徴
- ・リスク管理機関の動き
- ・期待する効果 等

早い段階から提供する

期待する効果(健康被害及び風評被害の拡大防止など)  
が最大限得られると思われる時期に提供する

発生している事象に関する情報

- ・既知の科学的知見
- ・リスク管理機関の対応状況
- ・一般的注意事項

等

- ・Q&A
- ・委員会からのお知らせ
- ・各リスク管理機関とのリンク

食品安全委員会の知見を含めた情報

- ・最新の科学的知見
- ・発生している事象に関する科学的分析を加えた情報
- ・国民に対する注意喚起

等

- ・**委員長談話**
- ・**委員会の考え方**

<作成時の留意点>

- ・目的を明確にする  
誰に伝えたいか  
何を伝えたいか
- ・内容を精査する  
新しい科学的知見を含むものか  
蓄積された情報を整理し提供するものか  
国民に対するメッセージ性はあるか

# 緊急時対応マニュアルの実効性の向上

緊急時対応マニュアルの各項目について、的確に実施出来るよう体制を整えることが重要であることが確認された

## 1. 緊急時対応マニュアルの再確認

訓練設定時(関係府省連絡会議が開催され、緊急協議を開催することを決定した状況)におけるマニュアルについては、特段の修正の必要のないことが確認された

## 2. 作業手順書の作成

マニュアルを更に具体的にルール化する必要性が確認された

- 情報共有(委員会内、関係機関、専門委員)
- 情報提供(マスコミ、国民)
- 外部問い合わせ対応について
- 緊急対策本部事務局設置について

等

# 設備等の強化

緊急対策本部事務局設置時に適切な対応をとるため、設備等を強化する必要性が確認された

1. 対策本部事務局を設置した際の事務室等の設置について、平時に準備をしておく
2. 関係者間の情報を共有しやすくするために、ホワイトボード等を準備する

# 訓練の継続

食品安全委員会における緊急時対応体制の充実を図るため、継続して訓練を実施することが重要であることが確認された

## < 今後の訓練 >

### (1) 委員会内の認識の共有を図る

様々な様式と設定の訓練(机上シミュレーション)を実施し、疑似体験を重ねる。

### (2) 緊急時対応マニュアルの実効性を高めるための訓練

机上シミュレーションと同様の設定の実動訓練を実施することにより、緊急時対応の確認及び緊急時対応マニュアルの検証等を行う。

### (3) 効果的な広報技術の習得のための訓練

広報に関する講習やメディアトレーニングを実施する。

平成18年度緊急時対応訓練総括表

訓練形式	目的	目標	訓練内容	訓練から得られた課題等	課題への対応	備考
第1回 総合訓練: シナリオ非提示型 机上シミュレーション	・食品安全委員及び事務局員が緊急事態及び緊急時対応の共通認識を持つ。 ・対応力や判断能力を向上させる。	・予め設定した緊急事態が「どう進展していくそうか」「関係各所はいつどのような対応を行うか」について話し合うことにより、 ・食品安全委員会が対応すべき緊急事態についての展開イメージを共有する	形式:机上シミュレーション 訓練対象者:委員及び委員会事務局幹部 設定: サルモネラ属菌による食中毒が発生、拡大化。死者も発生。 進行: 準備したシナリオを4つのフェーズに分割各フェーズ毎にコントローラーが情報を付与付与された情報をもとにプレーヤーが対応を協議 - プレーヤーは必要に応じて、幹部、委員と協議 - プレーヤーによる対応決定後に次のフェーズに移行	・提示された「緊急事態」での「緊急時対応」については、プレーヤー間で展開イメージを共有することができたが、プレーヤーのこれまでの経験等により、「緊急時対応」の判断に違いが生じた。	・机上シミュレーション訓練を繰り返し行うことにより多くの事例の展開イメージの共有を図る。 ・危機管理に必要な考え方、技術を再確認する。	考え方の再確認 訓練の継続
		シナリオ非提示型訓練に向けた課題を抽出する	・緊急時対応マニュアルの実効性を高めるための実動訓練を組む必要性が確認された。	・実動訓練により緊急時対応マニュアルの実効性を高める(実動訓練例) - 利用可能、設置可能な会議の種類と対応範囲の確認 - 緊急時対応における事務局の体制の確認 - 情報提供体制と手順の確認	訓練の継続	
		< 適確な訓練運営を実施する。 >	・議論がシナリオの精度に誘引され、議論が散漫になる傾向にあった。 ・シナリオ非提示型の訓練であったため、プレーヤーがシナリオを理解する時間がなかった。 ・進行役がフェーズ毎に議論を整理すると論点がわかりやすかった。	・訓練の事前説明を十分に行う。 ・訓練のねらいに適したシナリオを作成する。 ・議論する際の情報提供内容の提示の仕方を工夫する。 ・議論の段取りを工夫する。	訓練の継続	
第2回 総合訓練: シナリオ非提示型 実動訓練	・食品安全委員及び事務局員が緊急事態及び緊急時対応の共通認識を持つ。 ・対応力や判断能力を向上させる。 ・緊急時対応マニュアルの適確性を確認する。 ・緊急時対応手順を確認する。 ・定められた対応を迅速かつ確実に実施する。	・緊急時対応を迅速かつ適切に行うとともに、実践能力の向上を図る。 - 事務局内の情報共有をしっかりと行う。 - 緊急時における消費者やマスコミからの問い合わせに対する対応を確認する。	形式:シナリオ非提示型実動訓練 訓練対象者:委員及び委員会事務局員 設定: O157による食中毒が発生、拡大化。死者も発生している中、緊急対策本部設置を見据えた緊急協議を開催することを食品安全関係府省連絡会議(局長級)で確認 進行: 委員・事務局会議を開催(訓練の開催宣言と終了宣言) 緊急対策本部事務局体制 - 緊急協議開催・緊急対策本部立ち上げ作業 - 収集した情報の共有 - 外部からの問い合わせ対応	・与えられた役割はほぼこなすことができたが、対応の基本的な能力については更なる能力向上を図る必要性が確認された。 ・緊急事態における作業内容等の見直しの必要性が確認された。 ・事務局内の情報共有については、状況の把握、迅速な共有が効果的に行われなかった。 ・問い合わせに対する対応は概ね上手くいったが、更なる能力向上を図る必要性が確認された。	・訓練の継続、異なったステージでの訓練実施 ・緊急時対応マニュアルの再確認を行う。 班の役割の再検討や指示系統・連絡系統等の再確認 緊急協議の方法の検討 様式の整備、事務的な作業の手順書の作成 ・ホワイトボードの活用、情報の共有ルールの具体化等 ・同部屋での作業の検討 ・Q&A等を事前に作成する等の対処方法をマニュアル化する	訓練の継続 緊急時対応マニュアルの実効性の向上 施設等の強化 緊急時対応マニュアルの実効性の向上
		・緊急対策本部設置に向けて、緊急対策本部事務局を設置し、その手順を確認する。	・緊急時対応マニュアルにそって緊急対策本部を設置し、その手順を確認することができたが、他のステージでの対応手順については確認することができなかった。	・異なったステージでの訓練を実施する。	訓練の継続	
		< 適確な訓練運営を実施する。 >	・訓練のステージが緊急時対応マニュアルのどの部分に該当するのかわかりにくかった。 ・「協力者」の位置付けがあいまいでわかりにくい。 ・付与情報の量に比べ、プレーヤーの人数が少なかった。 ・忙しい人と比較的時間に余裕のある人があった。	・異なったステージにおける実動訓練を実施し、緊急時対応マニュアルを検証する。 ・机上シミュレーションと実動訓練を同じ局面とし、同じ参加者に対して訓練を行い、机上シミュレーションが実際にどのように活かされるかを確認する。 ・訓練が緊急時対応マニュアルのどの部分に該当するかを明確にし、訓練結果とマニュアルの実効性の検証がどう対応するのかを明確にする。 ・今回の訓練内容を再検討し、適切な訓練計画をたてる。	訓練の継続	
第3回 個別要素訓練: シナリオ提示型 机上シミュレーション 実動訓練(模擬記者会見)	・食品安全委員及び事務局員が緊急事態及び緊急時対応の共通認識を持つ。 ・対応力や判断能力を向上させる。 ・緊急時対応手順を確認する。	・食品安全委員会が情報発信すべき緊急事態についての展開イメージを共有する。	形式:個別要素訓練(机上シミュレーション+実動訓練) 設定: O157による食中毒が発生、拡大化。死者も発生。 進行: 情報提供についてのレクチャー(野村食品安全委員会委員) 情報提供の在り方についての検討 - 机上シミュレーション形式で、事前アンケートの結果を検討しながら、緊急時の情報提供等の対応について、共通認識を図った。 模擬記者会見 - 被害が拡大する中委員長談話を発表し、委員長による記者会見を行う、という設定の模擬記者会見を実施。	・関係者で議論することで、「委員会の情報提供の在り方について、整理することができ、認識の共有を図ることができたが、やはりプレーヤーの立場による考え方の違いや認識の違いも明確になった。 ・プレーヤー自身が、疑似体験することにより、広報対応の難しさについて自覚することができた。 ・対応時の注意点や課題点を確認することができた。	・今後もケーススタディ、机上シミュレーションを繰り返し行い、多くの事例で展開イメージの共有を図る ・食品安全委員会からの情報提供の考え方を再確認する。 ・平時からの情報収集及び分析を充実させる。 ・様々な設定でのシミュレーションを行い、「委員長談話」「委員会の考え方」に含めるキーワードを整理する。	考え方の再確認 訓練の継続
		・緊急時の記者会見を模擬的に実施し、対応能力の向上を図る。	・各想定段階で情報を提供した場合の論点を整理する。 ・事前アンケートで論点を整理しての議論は、プレーヤーに検討の時間を与えることができ、また議題を整理するのに有効であったが、アンケート内容等の検討の必要性が確認された。	・会見で守るべき要素(服装・仕事・表情・話し方など)を習得するため、広報に関する講習やメディアトレーニングを実施する。 ・様々な設定の訓練を繰り返し実施する。 ・訓練対象者を変えて実施する。	訓練の継続	
		< 適確な訓練運営を実施する。 >	・情報提供した際のメリット・デメリットを明確にするなど、議論の進行を工夫する。 ・議論の参考となる効果的なアンケートの実施について検討する。	訓練の継続		